



喜多方市男女共同参画審議会委員

喜多方市男女共生のつどい実行委員長

五十嵐 健展 さん

喜多方市男女共同参画審議会委員として長年活動しており、喜多方市男女共生のつどいに第1回から携わり、第7回からは実行委員長として企画・運営を行っている。

また、会津喜多方商工会議所青年部会長としての活動を通して、地域活性化や交流促進を図っている。

喜多方市男女共生のつどいの活動を通じて

「喜多方市男女共生のつどい」は、基調講演やパネルディスカッション等を行い、市民の皆さんと共に、男女共生社会の実現を目指すために開催をしています。私は合併後の平成18年3月に開催された「第1回喜多方市男女共生のつどい」から参加していますが、実行委員会に出席していますと、実行委員の皆様をはじめ、喜多方市男女共生のつどいの参加者の皆様の意識が高く、パワーがあると感じました。また、男女共生に限らず、まちづくりに対しても自分たちが住んでいるまちを良くしようと勉強熱心な方が多いと感じるようになりました。その中に身を置くことで刺激を受けるとともに、自分も成長することができ、また学ぶことが数多くあると思うことがあります。

実行委員会は当初は女性が多かったですが、回数を重ねるごとに男性の実行委員も増え、市議会議員の皆様も加わり、男女共生に対する男性の意識も少しずつ変わってきていると感じています。実行委員会に男性も多く参加していることで、様々な意見が出され、男女共生のつどいの企画立案に活かしているのではないかと思います。

現在、喜多方市男女共生のつどいの実行委員長を務めています。今年で4年目になります。また、今年「喜多方市男女共生のつどい」は3月14日に開催しますが、第10回の節目を迎えます。これまで携わってきて、喜多方市は男女共生に関して男性の意識が高まってきていると感じることがありますが、その反面、会議や会合など外に出るのはまだまだ男性が多いと感じています。だからこそ実行委員長としてこれまで以上に男女共生社会の実現を呼びかけていく必要があると考えます。

「喜多方市男女共生のつどい」の目標、着地点はどこかと聞かれますと、男女共生というものが広範囲にわたるものなので明確に一つの答えを出すことは困難であると考えます。「喜多方市男女共生のつどい」に参加したことで小さな気づきはあっても、男女共生に関する考えや行動がすぐに大きく変わることはないと思います。しかし、参加した方がその小さな気づきを実践していければ、自分たちのまちや地域がよりよいものになると考えます。

私たちの活動が世の中を大きく変えることはできませんが、第1回目から10年間続けてきて1歩、2歩と少しずつではありますが前進をしてきました。



喜多方市男女共生のつどい

結果がすぐに目に見えて分かることではありませんが、例え地味であっても意識啓発のため継続していくことが重要であると信じて取り組んでいます。

「喜多方市男女共生のつどい」に関して、まずは多くの方に参加をしてもらいたいというのが一番の思いです。参加をしてすぐに考え方が劇的に変わるということはなくとも、何もしなければ進展は望めません。少しでも考えるきっかけとなり、参加者のその中で 1、2 人でも意識を持って家庭や地域で実践してもらうことができたなら少なくともプラスになります。小さな積み重ねを続けていくことが大事だと思います。

実行委員会の先輩方が若い私を盛り上げてくださっているのです、自分の役割は若い世代の方々に自分のまちに関心を持ってもらうことだと意識をしています。そのきっかけを提供できるよう、内容も子育て世代の方が興味のあることに取り組んでいかなければと思っています。

会津喜多方商工会議所青年部の活動を通じて

私は、会津喜多方商工会議所青年部に所属しており、今年度会長を務めています。日ごろメンバーの皆様には話すことは、我々の活動をもって、まちの全てを輝かせることはできなくても、まちの一部だけでも輝かせるために活動をしていくことが大事だということです。

「観光」の語源は、自分の国がどれだけ光っているかを見るという中国の「観国之光」といわれているそうです。青年部の取り組みは、喜多方市の主要産業の一つである観光産業にかかわり合いを強く持っていますが、私たちの取り組みによりすぐにまち全体を輝かせることは困難かもしれません。しかし、一隅だけでも存在になれるように、その気持ちをみんなが共通の意識として持ちながら活動していければと思っています。

喜多方市にたくさんの方に来ていただいて、地域経済が活性化する仕組みを作りたいとの思いが強くなります。しかし、現実にはなかなか難しいというのが本音ではありますが、自分たちの取り組みを一つの光と思っていただけたら幸いです。



喜多方ゆめ広場

会津喜多方商工会議所青年部会長として会員を増やす努力をしてきて、現在 70 名近くのメンバーと共に活動をしています。会員拡大は組織力の強化のためだけでなく、自分たちのまちの問題点や課題、解決策を考える人を増やすということを大きな目標としています。一緒に考え、行動してくれる仲間が増えることはとてもありがたいことです。平成 29 年には会津喜多方商工会議所青年部創立 50 周年を迎えますが、記念すべき節目は多くのメンバーで迎えたいと願っています。

会津喜多方青年会議所の活動から得たこと

私にとって会津喜多方青年会議所がまちづくりの活動のスタートでした。私は 27 歳から 40 歳まで在籍しており、まちづくりや地域の交流について模索し、行動してきました。そこで先輩方から自分たちの住んでいるまちは自分たちで考えていかなければいけない、行政に頼るだけでなくいかに自分たちのまちを良くしていくか、まちづくりにどう参加していくかということを教わりました。それは私が活動をするうえでの柱であり、糧となっています。また、会津喜多方青年会議所に所属していたことが「喜多方市男女共生のつどい」に実行委員として参加するきっかけでもありました。

活動を通じて伝えたいこと

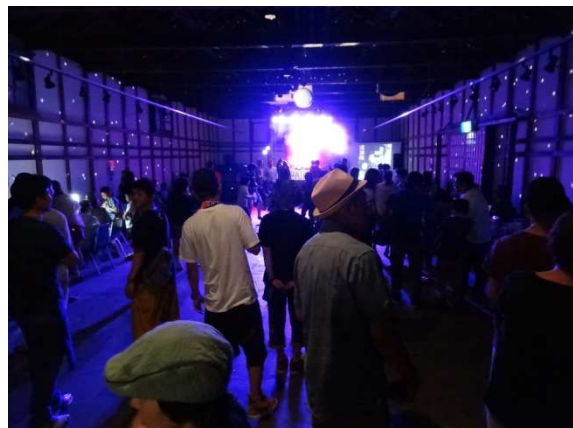
私は現在、会津喜多方商工会議所青年部、喜多方市男女共生のつどい実行委員会のほか、喜多方市男女共同参画審議会、喜多方レトロ横丁、ふくしまディスティネーションキャンペーン喜多方推進委員会に携わっています。これらは一見ジャンルが異なるように見えますが、実は全部つながっていると気づきました。それぞれの活動には自分たちのまちを良くしようとするのが根底にあり、大きな一つの輪になっていると考えます。

まちを良くするためのアプローチの方法はいくらでもありますし、まずどうしたら良いかを考えることが重要なことだと思っています。

現在、色々と役職が重なり忙しい毎日ですが本業をおろそかにしたくはありません。責任ある仕事をしたうえでボランティア活動ができると思っています。なぜできるのかと考えた時、それは自分の住んでいるまちが大事だから、そして、子どもたちにも先々良いまちにしてあげたいという気持ちがあるからだと思います。

自分が生まれ育ったまちこの「喜多方」は、これまでもそうですが、これからも魅力、活気が溢れるまちであり続けなければならないと思いますし、そのためにできることを実践してみようとも思っています。自分の住んでいるまちのことを投げ出すわけにはいかないとの思いでこれまでまちづくりの活動を続けてきました。

仕事が終わって、自分が自由に使える時間があるのならまちづくりのために使っていきたいと思います。それは、次世代のためであるとともに、自分のためでもあると考えます。まちづくりの活動を通じて学ぶことがたくさんあり、すばらしい経験をしていると思えるからです。もちろんそのためには、周囲の理解や協力があってこそできることですので、環境を与えていただいていることに大変感謝をしています。



喜多方レトロ横丁

男女の理解と協力

私もそうですが、男性が家事や子育てを積極的に行っているかを問われると、少々耳が痛いです。男女共同参画に携わってきて感じることは、よく言われている家事や子育ての分担はほんの一部でしかなく、男女共同参画は家庭・教育・人づくり・まちづくりと広範囲な取り組みだということです。それと同時に真剣に考えたら大きな問題だということも認識しました。

私の父親は家で台所には立たない人で、家事をするような人ではありませんでした。その背中を見てきた自分がこれまでの活動を通じて特別何か変わったとは正直思っていませんし、子育てにおいても特別変わったことはありません。しかしながら、家庭内での父親、母親としての役割は大事だと思います。元々の性別があって、それぞれに役割があり、男女が理解と協力をしていくことが必要だと感じています。

挑戦すること

今携わっている事業の一つに「ふくしまディスティネーションキャンペーン」があります。「ふくしまディスティネーションキャンペーン」は平成26年から平成28年の3年間にわたって開催されますが、イベントをきっかけに市内の酒造会社様や事業者様が連携して、市内に多くのお客様が足を運んでいた

だく仕組みを新たに構築することを目指しています。私が、日ごろから意識していることは、最初からだめだと思うのではなく、挑戦することが大事だということです。挑戦なくして成功はないと思っています。挑戦した結果が例えばうまくいなくてもそこから得るものがあり、次の挑戦につながると考えます。

喜多方市の観光は滞在時間が短いと言われていますが、多くの方にもっと喜多方市の魅力を伝えたいと思っていました。市内にはたくさんの酒蔵があるので、世界に誇れる喜多方の酒蔵の伝統や技術、そして日本酒そのものをもっと知ってほしいと考えていました。

伝統・技術そしておいしい日本酒を知ってもらうための酒蔵見学のモニターツアーなどを企画し、実施してきました。開催当初は、手探り状態で、本当にお客様を呼び込めるか不安でしたが、市外からの参加者も多く、今では募集定員を上回るようになりました。毎回満員となれば私たちの不安も取り除かれ、また、初めは関心が薄かった周囲も意欲を持ってもらえるようになってきました。やってきたからこそその結果なのだと思います。

仕事でも、まちづくりでもまずは挑戦し、成功を信じて行動してみることが第一歩なのだと考えます。

仕事や子育てにと忙しいですが、若い今だからこそ様々なことに挑戦してみたいと考えていますし、今だからこそ可能なのだとも思えます。若いうちは失敗を恐れず、率先して挑戦してみたいです。

今後の展望

これまでいろいろと地域やまちづくりに携わってきましたが、喜多方市には意識が高い方が多く、一生懸命取り組んでいると改めて感じています。忙しい中でもそういった方々と過ごす時間はとても貴重で、自分の財産になっていると思います。そして、今後はその経験を自分がまちづくりに活かしていくことが役目であり、恩返しになると考えています。

問題がないと思ったらそこで終わりだと私は思っています。なにが問題かを考えることこそが重要で、そこには大勢の人が参加したほうが新たな発想も生まれ、まちを活性化させる大きな力となると確信を持っています。

地域の活性化やまちづくりにおいて、女性の視点はこれから必要不可欠であります。女性には男性では思いつかない柔軟なアイデアがたくさんありますし、ソフト面でもっと女性の意見が反映され、顔が見えるようになればまちがより輝き、そして、魅力的になると確信しています。